

清 監 査 号  
令 和 5 年 7 月 1 8 日

清水町長 阿 部 一 男 様

清水町代表監査委員 飯 野 光 彦



清水町監査委員 西 山 輝 和

令和4年度清水町水道事業会計及び下水道事業会計決算審査意見書

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された令和4年度清水町水道事業会計及び下水道事業会計決算について、審査した結果を次のとおり報告する。

記

1. 審査の対象

- (1) 令和4年度清水町水道事業会計
- (2) 令和4年度清水町下水道事業会計

2. 審査の時期

令和5年6月22日

3. 審査の方法

決算の審査は、令和5年5月30日付けをもって審査に付された令和4年度清水町水道事業会計及び下水道事業会計決算書について、予算書、決算報告書、損益計算書、剰余金計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表及び関係諸帳簿並びに証拠書類について計数と内容の精査を行うとともに、水道事業及び下水道事業の経営と財政の状態について審査した。

また、担当職員の説明を聴取する方法により、予算の執行及び事務処理について審査を実施した。



#### 4. 決算の状況

##### 【水道事業会計】

##### (1) 収益的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	263,264,000	261,813,000	1,451,000	
決算額(税込)	270,444,617	254,906,646	15,537,971	
決算額(税抜)	254,980,305	243,231,765	11,748,540	
執行率(税込)	102.73	97.36		

##### (2) 資本的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	53,800,000	125,008,000	-71,208,000	
決算額(税込)	53,800,000	123,184,415	-69,384,415	
決算額(税抜)	53,800,000	117,565,426	-63,765,426	
執行率(税込)	100.00	98.54		

##### 注1) 財源補填内訳

○ 過年度分損益勘定留保資金	64,692,698 円	
○ 当年度分消費税資本的収支調整額	4,691,717 円	(3条予算で費用化)
合 計	69,384,415 円	

##### 【下水道事業会計】

##### (1) 収益的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	303,289,000	301,315,000	1,974,000	
決算額(税込)	310,453,099	294,150,275	16,302,824	
決算額(税抜)	293,478,303	286,571,219	6,907,084	
執行率(税込)	102.36	97.62		

## (2) 資本的収支の状況

(単位:円:%)

区 分	収 入	支 出	差 引	備 考
予算額(最終)	228,527,000	273,294,000	-44,767,000	
決算額(税込)	228,526,120	270,670,085	-42,143,965	
決算額(税抜)	228,526,120	251,304,510	-22,778,390	
執行率(税込)	100.00	99.04		

## 注2) 財源補填内訳

○ 過年度分損益勘定留保資金 42,143,965 円

## 5. 未収金の状況

## 【水道事業会計】

## (1) 水道料金収納状況

(単位:円:%)

年 度	調 定 金 額	収 入 金 額	不納欠損額	未収入金額	不納欠損前 収 納 率	備 考
現年度分	165,040,260	163,415,990	0	1,624,270	99.02	前年度比 +0.02 ポイント
過年度分	3,777,270	1,889,200	0	1,888,070	50.01	前年度比 -2.83 ポイント
合 計	168,817,530	165,305,190	0	3,512,340	97.92	前年度比 -0.15 ポイント

## (2) その他使用料及び手数料等収納状況

(単位:円:%)

年 度	調 定 金 額	収 入 金 額	不納欠損額	未収入金額	備 考
R4年度分 手 数 料	29,310,000	0	0	29,310,000	一般会計補助金(R5.4.18収入済)
H24年度分 使 用 料	1,000	0	0	1,000	看板設置用地使用料

【下水道事業会計】

(1) 下水道料金収納状況

(単位:円:%)

年 度	調 定 金 額	収 入 金 額	不納欠損額	未収入金額	不納欠損前 収 納 率	備 考
公共下水道 現 年 度 分	94,752,472	94,209,832	0	542,640	99.43	前年度比 -0.06 ポイント
公共下水道 過 年 度 分	493,430	477,280	0	16,150	96.73	前年度比 -0.20 ポイント
集 落 排 水 現 年 度 分	29,310,990	29,119,280	0	191,710	99.35	前年度比 -0.00 ポイント
集 落 排 水 過 年 度 分	197,410	187,340	0	10,070	94.90	前年度比 -3.26 ポイント
合 計	124,754,302	123,993,732	0	760,570	99.39	前年度比 -0.06 ポイント

(2) その他使用料及び手数料等収納状況

未収金なし

6. 過去5年間の年間総配水量(総処理水量)・有収水量及び有収率の状況

【水道事業会計】

区 分	総配水量(m <sup>3</sup> )	有収水量(m <sup>3</sup> )	有収率(%)	備 考
平成30年度	1,652,078	1,205,772	72.99	
令和元年度	1,646,121	1,247,850	75.81	
令和2年度	1,615,849	1,267,953	78.47	
令和3年度	1,585,815	1,255,027	79.14	
令和4年度	1,536,684	1,271,682	82.75	

【下水道事業会計】

区 分	総処理水量(m <sup>3</sup> )	有収水量(m <sup>3</sup> )	有収率(%)	備 考
平成30年度	1,086,641	639,882	58.89	
令和元年度	1,015,168	636,179	62.67	
令和2年度	1,017,330	650,912	63.98	
令和3年度	1,134,837	645,354	56.87	
令和4年度	933,050	631,132	67.64	

7. 過去5年間の企業債の状況

【水道事業会計】

区 分	企業債償還金 元	企業債償還子 利	企業債残高	備 考
平成30年度	56,464,830	11,390,273	882,729,290	借入額 111,300,000
令和元年度	54,892,245	10,825,518	903,037,045	借入額 75,200,000
令和2年度	59,683,218	10,113,725	876,753,827	借入額 33,400,000
令和3年度	63,387,390	9,319,010	856,966,437	借入額 43,600,000
令和4年度	61,375,532	8,602,229	826,590,905	借入額 31,000,000

【下水道事業会計】

区 分	企業債償還金 元	企業債償還子 利	企業債残高	備 考
平成30年度	123,216,328	10,457,978	545,953,698	借入額 39,900,000
令和元年度	107,673,967	8,116,107	458,879,731	借入額 20,600,000
令和2年度	83,182,322	6,150,839	385,397,409	借入額 9,700,000
令和3年度	69,776,779	4,635,989	393,420,630	借入額 77,800,000
令和4年度	57,648,750	3,942,845	425,271,880	借入額 89,500,000

8. 審査の結果(総括意見)

決算報告書及び財務諸表は、地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成され、適正に処理されている。

また、計数は令和5年3月31日現在における財政状況及び経営成績を適正に表示されているものと認められた。

## 9. 個別意見

### 【水道事業会計】

(1) 収益的収支では、事業収益は254,980,305円で、前年度と比較して4,013,741円増加し、このうち水道料金である給水収益は150,036,606円となり、23,866,781円の減少となった。事業費用は243,231,765円で、前年度と比較して7,756,312円の増加となった。当年度純利益については11,748,540円となり、前年度と比較して3,742,571円の減少となったが、主な要因としては、給水収益の減少及び浄水場に係る修繕費や動力費が増加したことによるものである。

資本的収支では、給水区域内の管路網の更新整備及び浄水場の機器更新を年次的に進めており、令和4年度は老朽管更新として、道路工事に伴う配水管の布設替等を375.29メートル実施している。

今後の見通しは、収益的収支においては給水区域内の普及率が97%を超えていることや、給水区域内の人口の減少などにより、使用水量の減少が見込まれることから、今後においても効率的な経営に努力願いたい。

(2) 有収率は82.75%と前年度より3.61ポイントの増となっている。引き続き、有収率を低下させないよう計画的な漏水対策に努めること。

(3) 水道料金の未収金額は、3,512,340円で、前年度と比較して264,930円の減となっている。収納率は現年度分で99.02%で、前年度と比べて0.02ポイント増加しており、過年度分の収納率は2.83ポイント減少している。

給水停止実施要領に基づいて、滞納者との折衝を効果的に行い、滞納者との早期からの関わりと、分納誓約などにより滞納者との折衝を増やすことにより更に未収金が減少することを目標に取り組んでもらいたい。公平な受益者負担を保つために今後においても一層の努力を求める。

以上、審査の結果について意見を述べたが、施設の効率的な維持管理に万全を期して安全で良質な水道水を安定供給し、町民生活の向上と福祉の増進に貢献するため、合理的で健全な経営を期待するものである。

## 【下水道事業会計】

(1) 収益的収支では、事業収益が293,478,303円で、このうち下水道使用料収入は112,784,976円、一般会計からの補助金等が100,163,000円となっている。事業費用は286,571,219円で、当期純利益は6,907,084円となった。

資本的収支では、公共下水道事業で令和2年度から国庫補助事業を活用し管渠及び終末処理場の更新整備を進めており、収入が228,526,120円、支出が270,670,085円となり、支出に対し不足する額42,143,965円は、過年度分損益勘定留保資金42,143,965円で補てんしている。

令和4年度末時点での処理区域内人口は6,570人で、前年度と比較し69人の減、水洗便所設置済み人口は6,450人で、前年度と比較し69人の減となった。今後の見通しは、収益的収支においては区域内の水洗便所設置率が98%を超えていることや、処理区域内の人口の減少などにより、排水量の減少が見込まれ、さらには、施設の維持管理や更新整備が必要とされるため、今後においても効率的な経営に努力願いたい。

(2) 年間総処理水量は933,050立方メートルで、前年度と比較して201,787立方メートル減少し、有収水量は631,132立方メートルで、前年度と比較して14,222立方メートル減少した。年間総処理水量を事業別に見ると、公共下水道事業で前年度と比較して192,766立方メートル減少し、集落排水事業でも前年度と比較して9,021立方メートル減少した。引き続き、不明水進入防止対策などを計画的に進め、より一層改善を図られたい。

(3) 下水道料金の未収金額については、公共下水道事業558,790円、集落排水事業201,780円であり、公共下水道事業で65,360円の増加、集落排水事業で4,370円の増加となっている。水道事業会計と同様に、滞納者との折衝を効果的に行い、滞納者との早期からの関わりと、分納誓約などにより滞納者との折衝を増やすことによって更に未収金が減少することを目標に取り組んでもらいたい。公平な受益者負担を保つために今後においても一層の努力を求める。

以上、審査の結果について意見を述べたが、施設の効率的な維持管理と計画的な更新を行い、生活排水と雨水の安定処理を行い、快適で良好な生活環境を維持していくために、合理的で健全な経営を期待するものである。